

21:1 あなたが彼らの前に立てる定めは次のとおりである。

21:2 あなたがヘブル人の奴隷を買う場合、彼は六年間、仕え、七年目には自由の身として無償で去ることができる。

21:3 もし彼が独身で来たのなら、独身で去り、もし彼に妻があれば、その妻は彼とともに去ることができる。

21:4 もし彼の主人が彼に妻を与えて、妻が彼に男の子、または女の子を産んだのなら、この妻とその子どもたちは、その主人のものとなり、彼は独身で去らなければならない。

21:5 しかし、もし、その奴隷が、『私は、私の主人と、私の妻と、私の子どもたちを愛しています。自由の身となって去りたくありません。』と、はっきり言うなら、

21:6 その主人は、彼を神のもとに連れて行き、戸または戸口の柱のところに連れて行き、彼の耳をきりで刺し通さなければならない。彼はいつまでも主人に仕えることができる。

21:7 人が自分の娘を女奴隷として売するような場合、彼女は男奴隷が去る場合のように去ることはできない。

21:8 彼女がもし、彼女を自分のものにしようとした主人の気に入らなくなったときは、彼は彼女が贖い出されるようにしなければならない。彼は彼女を裏切ったのであるから、外国の民に売る権利はない。

21:9 もし、彼が彼女を自分の息子のものとするなら、彼女を娘に関する定めによって、取り扱わなければならない。

21:10 もし彼が他の女をめとるなら、先の女への食べ物、着物、夫婦の務めを減らしては

ならない。

21:11 もし彼がこれら三つのことを彼女に行なわないなら、彼女は金を払わないで無償で去ることができる。

神様の定めについて、その内容が始まってゆきます。その始めに奴隷という、最も弱い立場の人のために規定があることは、意味のあることです。神様はそのように弱い人をいつくしんでくださるかたです。

ここでは、主人の下を去ることができるのに、「去りたくありません。」と、主人を慕う奴隷について書かれています。これはまさに私たちの姿です。すなわち奴隷であったとしても、主イエスのもとを去りたくなどないという、私たちの信仰なのです。

耳を刺し通すというのはピアスでも空けるようですが、これは象徴であって、主イエスのことばを聞く者となることを表しています。主イエスの奴隷であることを誇りとしましょう。そのように仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

